

富津市創生会議 会議録

1 会議の名称	富津市創生会議
2 開催日時	令和5年10月3日(火) 午前10時～午前11時50分
3 開催場所	富津市役所1階 大会議室
4 審議等事項	<ul style="list-style-type: none"> ・副会長の選出について ・第2期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画の2022年度事業評価について
5 出席者名	<p>富津市創生会議委員(9名)</p> <p>青木 和彦、石井 喜美子、岩井 允、梅内 泉、岡田 亮介、小嶋 友子、笹生 一樹、島野 勝弘、鈴木 真紀</p> <p>事務局(8名)</p> <p>市長 高橋 恭市、副市長 小泉 義行、企画政策部長 石川 富博、企画政策部次長 小川 真司、企画課長 秦野 憲一、企画課企画係長 牧野 圭吾、企画課副主査 大野 恵、企画課主事 松井 大和</p> <p>事業担当課(39名)</p>
6 公開又は非公開の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 非公開の理由	富津市情報公開条例第23条第 号に該当(理由)
8 傍聴人数	0人(定員 5人)
9 所管課	企画政策部企画課企画係 電話 0439-80-1223
10 会議録(発言の内容)	別紙のとおり

富津市創生会議 会議録

発言者	発言内容
事務局	<p>委員の皆様方におかれましては、本日はご多用のところお集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>開会に先立ちまして、人事異動により鈴木委員と小宮委員が異動されましたことから、梅内様と新行内様に、本会議委員に新しくご就任いただいております。後ほどご挨拶いただきたく存じます。</p> <p>以上が、ご報告となります。</p> <p>続きまして、本日の会議資料の確認をさせていただきます。着座にて失礼いたします。机上配布させていただいた「会議次第」、「席次表」、「富津市創生会議委員名簿」、「市出席者一覧表」、事前に送付させていただきました「富津市創生会議について」、「第2期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画【2022年度事業評価報告書】」、以上が本日の会議資料でございます。資料はお揃いでしょうか。</p> <p>1 開会</p>
事務局	<p>それでは、ただいまから、富津市創生会議を開会いたします。</p> <p>はじめに、本日の委員の出席状況を報告させていただきます。11名の委員のうち、新行内委員、小泉委員におかれましては、本日欠席されておりますので、出席委員9名、欠席委員2名でございます。従いまして、富津市創生会議設置要綱第6条第2項の規定により、半数以上のご出席をいただいておりますので、会議が成立してまいりますことをご報告申し上げます。</p> <p>続きまして、会議の公開についてですが、本日傍聴者がいないことをご報告させていただきます。</p> <p>また、会議録作成のため録音させていただきますのでご了承願います。</p> <p>なお、質疑応答の際は着座にてマイクをご使用いただき、係員へ受け渡しいただきますようお願いいたします。</p> <p>2 委嘱状交付</p>
事務局	<p>続きまして、委嘱状の交付に移らせていただきます。</p> <p>本来であれば、市長から委嘱状を交付させていただくところでございますが、時節柄、事前に梅内様のお手元に委嘱状を交付させていただきました。何卒、ご理解くださいますようお願い申し上げます。</p> <p>3 市長挨拶</p>
事務局	<p>続きまして、開会に当たり高橋市長からご挨拶を申し上げます。</p>

高橋市長

皆様こんにちは。本日は大変お忙しい中、委員の皆様方にはご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

早速ですが、本日の会議は、「第2期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画の2022年度事業評価について」を議題とさせていただきます。

評価について、後ほど事務局から説明をさせていただきますが、委員の皆様方におかれましては、総合戦略の着実な実行のため活発なご意見を賜りますようお願い申し上げる次第であります。

皆様にご案内のとおり、市では市民に皆様に分かりやすく10年後の将来像を示し、その実現に向けて市民の皆様とともに取り組むため、市の計画や施策体系の最上位に位置づける富津市みらい構想を策定しております。

そのみらい構想におきまして、総合戦略を優先計画として位置づけており、市民の皆さんにとって、誇りと愛着を持って暮らせるまちとなるように、今後も引き続き、一つ一つの施策について着実に実行してまいり所存でございます。委員の皆様におきましては、今後とも引き続き市政発展にお力添えいただきますよう心よりお願い申し上げます。会議冒頭の挨拶といたします。どうぞよろしくお願ひいたします。

4 会長挨拶

事務局

続きまして、青木会長からご挨拶をお願いします。

青木会長

皆様、おはようございます。会長を務めさせていただきます、青木でございます。どうぞよろしくお願ひします。

まずは、高橋市長はじめ職員の皆様におかれましては、市民の安らかな暮らしに向けてご尽力賜りますこと、この場を借りて御礼申し上げます。

そして委員の皆様も大変ご多用の中、ご出席をいただきまして本当にありがとうございます。

今年は、本当に暑い夏が続き9月も暑く、ここにきてようやく朝晩涼しくなって、やっと秋を感じられる季節になってきたというのを実感しております。

本日の創生会議では前回から約半年が経っているところでございます。皆様方も資料をお手元に届いた際、いろいろな半年前のことを思い出しながら、確認をしていただいたのかなと思います。

この会議では、ぜひとも皆様方の貴重なご意見、活発なご意見を出していただくということが重要な会議であります。

遠慮なくどんどんご発言をいただきたいと思ひます。

どうぞよろしくお願ひいたします。簡単ではございますが、私の挨拶にさせていただきます。

事務局

ありがとうございました。

ここで、本年7月25日付けで富津市創生会議委員にご就任いただきました株式会社 JERA 富津火力発電所 渉外専任次長 梅内 泉様におかれましては、今回が初めての会議参加となりますので、恐れ入りますが一言ご挨拶いただきたいと思います。

梅内様 お願いいたします。

梅内委員

皆様、おはようございます。ご紹介いただきました株式会社 JERA 富津火力発電所の梅内と申します。

前任の鈴木が、7月に人事異動で私が後任となりました。

本創生会議は、私もまた先ほど委嘱いただきましたので、務めさせていただきますと思います。我々事業者の立場としても、富津市みらい構想の実現に向けて、少しでもお手伝いしていきたいと思っております。

事務局

ありがとうございました。

次に、本年7月27日付けで株式会社 千葉銀行富津支店長 新行内 崇彰様に富津市創生会議委員にご就任いただきました。新行内様におかれましては、本日欠席の連絡をいただいておりますので、ご紹介のみさせていただきます。

5 職員紹介

事務局

続きまして、企画政策部長の石川から事務局の紹介をさせていただきます。

石川企画政策
部長

それでは、私から今年度の事務局の紹介をさせていただきます。

企画政策部次長の小川です。企画課長の秦野です。

企画係長の牧野です。企画係の大野です。同じく松井です。

最後に私、企画政策部長の石川でございます。今年度は、この事務局の職員で運営をさせていただきます。よろしくお申し上げます。

事務局

それでは、ここからは、富津市創生会議設置要綱第6条第1項により、会長に議長となつていただき、進行をお願いします。

青木会長、よろしくお願いします。

青木会長

それでは、議長を務めさせていただきます。早速議題に入らせていただきます。

6 議題（１）副会長の選出について

青木会長

人事異動に伴い、鈴木敏夫委員が異動され、副会長が不在となっております。そのため、議題（１）「副会長の選出について」を議題といたします。事務局の説明を求めます。

事務局

副会長の選出について、ご説明いたします。
富津市創生会議設置要綱第5条第1項に「会議に会長及び副会長を置き、それぞれ委員の互選によりこれを定める。」と規定されています。
なお、互選の方法については、要綱に規定はありませんが、同様の会議では指名推薦による方法があります。

青木会長

ただいま、事務局から説明がありましたが、互選の方法といたしましては、指名推薦としてよろしいでしょうか。

委員

異議なし

青木会長

ご異議がないようでございますので、副会長の選出方法は、指名推薦といたします。どなたか、推薦いただける方はおりますでしょうか。

石井委員

私といたしましては、新富工場協議会等で様々な見識を有する、梅内委員にお願いしてはいかがかと考えます。

青木会長

ただいま、石井委員から梅内委員を副会長にとの推薦がありましたが、いかがでしょうか。他にご推薦される方いらっしゃいますでしょうか。

青木会長

ご異議がないようでございますので、皆様ご了承いただけますでしょうか。ありがとうございます。それでは、梅内委員に副会長をお願いしたいと思います。梅内委員は、副会長席に移っていただきまして、以後の議事運営をお願いしたいと存じます。

事務局

それでは、大変恐縮ですが、梅内副会長に一言ご挨拶をいただきたいと存じます。よろしく願いいたします。

梅内副会長

改めまして、梅内でございます。ご推薦いただきましてありがとうございます。僭越ながら総合戦略の実行に向けて、皆さんと一丸となって取り組んでまいりたいと思います。よろしく願いします。

事務局

ありがとうございました。

青木会長

それでは、本日の会議録署名委員を指名させていただきます。岡田委員と小嶋委員にお願いしたいと思いますので、よろしく願いします。

議題（２）第２期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画の2022年度事業評価について

青木会長

それでは議題に入ります。「第２期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画の2022年度事業評価について」を議題といたします。事務局の説明を求めます。

事務局

議題の「第２期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画の2022年度事業評価について」ご説明申し上げます。着座にて失礼いたします。

資料の冊子をご覧ください。こちらが、第２期総合戦略実行計画の掲載事業について、2022年度の実績・評価を取りまとめた報告書となります。

２ページをお開きください。はじめに、１の「評価の趣旨」についてですが、市では、第２期総合戦略に掲げる施策・事業を、計画的かつ効果的に実行するに当たり、事業の具体的な内容、費用、目標値などの概要を明らかにし、毎年度、その進捗状況や効果を取りまとめ、創生会議や既存の審議会などと連携し、評価、改善を行うことで、次年度以降における予算や事業実施のための具体的な指針とするため、第２期総合戦略実行計画を策定しています。今回は、2022年度に実施した事業について、実績を取りまとめ、今後の取組改善等につなげるため、評価を実施するものであります。

次に、２の「評価の対象」についてですが、第２期総合戦略実行計画（2022年度当初予算版）に掲載している事業としています。

次に、３の「評価の方法」についてですが、第１期総合戦略の施策評価と同様に、成果指標の達成状況を以下のとおり分類し、評価を行っています。Aが達成率100%以上のもの、Bが達成率80%以上100%未満のもの、Cが達成率50%以上80%未満のもの、Dが達成率50%未満のもの、その他が成果指標の達成状況を評価できないもの。これは、成果指標をアンケートによるものとしているが、2022年度にはアンケートを実施していないものや事業の実施予定のなかったものとしています。

次に、４の「成果指標の達成状況及び概要」についてですが、こちらは、各事業で設定している成果指標について、先ほど説明した評価方法による結果を取りまとめたものです。

全部で126の成果指標を設定しており、詳細は記載のとおりでございます。「評価D」の成果指標数が28であり、全体の約4分の1を占める結果となっています。このうち15の成果指標については、「講座・イベント等の開催回数や参加者数など、人の動きに連動する指標を設定しており、2022年度においても、新型コロナウイルス感染症拡大による事業の縮小、中止等があったことから、達成状況に大きく影響しているものと考えられます。

３ページをお開きください。総括的評価として、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により事業を縮小、中止とした事業も多くなる中、達成率80%以上、達成度A及びBの成果指標は前年度より増加となりました。

以下、基本目標 1 から基本目標 4 までのそれぞれの達成状況の概要を記載しています。

6 ページをお開きください。ここから 12 ページまでは、事業評価シートの一覧表になっています。事業名、担当課名、ページ番号を記載しています。

14 ページをお開きください。ここからは、基本目標ごとに個別事業の事業評価シートを載せています。事業評価シートには、事業の目的、内容、取組実績、成果、自己評価、次年度以降の取組等を記載しています。

時間の関係もありますので、個別事業全ての説明は省略させていただきますが、昨年度の新規事業等を基本目標ごとにいくつかピックアップしてご紹介いたします。

まず、基本目標 1 ですが、29 ページをお開きください。

上段の「読書活動推進事業」でございますが、こちらは、市内全小中学校の図書室に読書支援員を配置し、図書室の環境整備を行い、読書活動を推進する事業です。読み聞かせ活動や本の紹介活動を行うことで、様々な本に触れる機会を提供し、読書好きな児童・生徒を増やし、学力向上につなげていくものです。次年度以降は、読書支援員を増員し、活動をより充実させていくこととしています。

次に、基本目標 2 について、35 ページをお開きください。

「鋸山日本遺産認定推進事業」でございますが、こちらは令和 3 年 7 月に日本遺産「候補地域」の認定を受けた鋸山が、3 年後、日本遺産として認定されることを目指す事業で、富津市・鋸南町との共同による活用推進協議会において、基盤整備等の事業に取り組みながら、2024 年度の日本遺産認定を目指していくこととしています。

次に、40 ページをお開きください。

上段の「図書館整備事業」でございますが、こちらは、市民により良い読書環境と情報を提供し、読書活動を推進するため、本館機能を持つ市立図書館の整備及び電子図書館の導入により、市民の需要に応えた図書サービスの充実を図るものです。市立図書館整備基本計画に基づき、イオンモール富津内に市立図書館を整備し、企業版ふるさと納税やガバメントクラウドファンディングを活用して、目標とする開館時 65,000 冊を達成することができました。

また、インターネットを通じて、いつでもどこでも電子書籍を楽しめる電子図書館を導入し、読書環境の整備を図ることができました。

次に基本目標 3 について、54 ページをお開きください。

下段の「ステイふっつ移住促進事業」でございますが、こちらは、移住希望者に市の魅力を知ってもらうため、市内を案内するとともに、市内での暮らしを体験する等の理由で滞在する際の宿泊費を一部補助することで、市への転入促進につなげるものです。

移住コンシェルジュによる市内案内ツアーを 9 件実施し、ステイふっつ移住促進事業については、3 件の利用がありました。

引き続き、市内案内ツアーの充実を図り、移住促進ができるよう取り組んでいくこととしています。

次に、基本目標 4 について、59 ページをお開きください。

「閉校施設等を活用した企業誘致」でございますが、こちらは、公共施設・インフラを自治体経営の視点から、企画、管理及び利活用する「公共施設等マネジメント」及び小中学校再配置構想により、閉校となる学校施設について、地域の意見を踏まえつつ、民間活力の導入等による有効活用を行うものです。

2022年度は、旧竹岡小学校の利活用を考えるワークショップを竹岡コミュニティセンターで開催し、利活用事業においては、旧環南小学校、旧天羽東中学校、旧竹岡小学校の公募を実施し、旧環南小学校及び旧天羽東中学校の優先交渉権者が決定しました。旧竹岡小学校は、優先交渉権者が先月、決定したところです。

2023年度は、旧環南小学校、旧天羽東中学校、旧竹岡小学校、浅間山運動公園周辺市有地の利活用事業開始に向けた各種準備と、青堀駅前の旧バスターミナル用地売却に係る公募を予定しているため、地域住民等の理解と協力を得て、利活用事業者と密に連携を図り、着実に進めていくこととしています。

以上で、説明を終わります。

青木会長

ただいま、事務局の説明が終わりました。それでははじめに、基本目標1と基本目標2について、ご意見等を伺いたいと思います。資料の14ページから47ページまでとなります。ご質問等ございましたら、お願いいたします。

それでは島野委員お願いします。

島野委員

大変立派な資料をまとめられて素晴らしいなと思っておりますが、どこにお金が一番かかったかという観点でいうと、どれにお金がかかったのでしょうか。

多分成果だけでなく、何を投入リソースとして投入したかということとの比較の問題があるかと思ひ、どの施策がコスパが良かったとか、これはお金がかからなかったんだけど、成果はとてもあったとか、そういう観点から見た時に、どういうふうに見えるのかなと思ひ質問させていただきました。

高橋市長

島野委員ありがとうございます。具体的な単独の事業といたしましては、やはり新規のオープンと開設ということがありましたので、図書館の整備で、工事や本の購入などを合わせますと、大きな部分を占めているのかなと考えております。

具体的に、それぞれ順位でどこがいくらという数字は、持ち得ておりませんけれども、そのように考えております。

島野委員

はい。どうもありがとうございます。図書館には私も行ってみました。素晴らしい図書館だなと思ひましたし10万人の来訪者があったということで、非常にいい施策だったんだろうなと思ひておりました。どうもありがとうございます。

青木会長

ありがとうございます。
それでは、岡田委員お願いします。

岡田委員

ご説明ありがとうございました。
さきほど、コスパの話で私もいろんな自治体でお手伝いさせていただいている中で、電子図書館の導入って結構今検討している自治体が多いのですが、やはりコスパはどうなんだと常に問われ、費用対効果という意味で問われるんですけども、電子図書館の方の利用者数、何かわかるようであれば教えていただきたいというのが1点と、あと18ページの下ですね、チャイルドシート貸付事業ですが、半年前も質問して覚えているんです、最長が1年というのが、僕、今4歳の子供がいるので、借りるとなると、かなり限定的で、例えば1年後に引越しを予定しているとか、1年後にはもう必要なくなるっていう方だけしかなかなか1年で借りようとは思わないんだろうなと思うと、17台もあって、遊ばしてるものがあれば勿体ないなと思うので、その辺の緩和みたいなところも一部検討できるんじゃないかと思いました。

資料全体でいくと、2ページに全体マクロでお示しいただいて、達成度合いは結構いいんだなと思うのですが、一方で、2020年度からの時系列で追おうとすると、この資料では1個1個の事業でしか追えないので、マクロで2020年からどうなんだろうと追い方がこの資料ではしにくいので、もし今後可能であれば、時系列でどのように達成率が推移しているのかというのをマクロで追えるようなデータがあるといいなと思いました。いっその事、オープンデータ化してしまっただけで、これでPDFを上げるという意味のオープンデータではなくて、機械可読性のある形でオープンデータ化してしまい分析できるようなアプリを、民間が作るみたいなBIツールとかですね、そのようにしてしまう方が市民の皆さんの関心が高まっているのかなと感じました。

青木会長

はい、ありがとうございます。3点ご意見いただきました。
まず、電子図書館の利用者数等についてお願いします。

生涯学習課

電子図書館についてお答えさせていただきます。まず、図書館の設置を進めている中で、やはり図書館に直接来られない方や遠方の方、多様な取り組みということで、電子図書館ということで、令和5年1月4日から導入いたしました。費用につきましては、約700万円の導入費用でしたが、国の補助金を活用させていただきました。

令和4年度実績としては、1月から3月の間で、利用者が846人でした。令和5年度は、8月末時点で利用者が726人です。まだまだ利用者は少ないと認識しておりますので、今後ともPRしながら、利用の促進に努めたいと考えております。

青木会長

はい、ありがとうございました。
続いて、チャイルドシートの件をお願いします。

こども家庭課	<p>チャイルドシートの貸付につきましては、委員おっしゃっていただいたように、貸し出し期間が1年しかないというのは、担当としても課題と捉えております。その一方で、令和4年度に標準使用期間が経過したチャイルドシート 12 台全て更新をさせていただきました。更新にあたりましては、企業版ふるさと納税を活用し購入しました。12 台の貸し出し状況については、今年度から新しいものの貸し出しを開始し、現状において全て貸し出しをしている状況です。</p> <p>貸し出し状況を見ますと、1年の貸し出し期間と言いつつも一定のニーズがあるのかなというふうに考えているのも現状でございます。</p> <p>どのような制度が市民の皆様にとって有効なのかということも踏まえて、今後検討していきたいと考えております。</p>
青木会長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>それでは、3つ目に全体の関係で2ページにある成果の指標についてですが、他年度との比較という部分はいかがでしょうか。</p>
企画課	<p>成果指標の達成状況については、過去の部分と比較できるような形で今後表示していきたいと考えております。</p> <p>また、オープンデータにつきましては今後検討していきたいと考えております。</p>
青木会長	<p>はい、ありがとうございます。岡田委員よろしいでしょうか。</p> <p>他にございますか。</p> <p>はい、笹生委員お願いします。</p>
笹生委員	<p>27 ページの上段で、富津の自然歴史社会の豊かさ活用事業で小学校3、4年生に、私達の富津市の関係で授業をやっているようですが、成果が2020年、2021年は90%台ですが、2022年度は65%ということで、理由としては、タブレットを使用しての回答だったためと書いてあります。今、子供たち1人1台ずつ支給されていると思いますが、電子化でいろんなものをタブレットを利用してやっていくのですが、タブレットの使用に関して、小学校でどの程度授業等で使い方を習っているのかという点が疑問に思いました。というのも、せっかく勉強して回答ができていても、これに書いてある通り、主要の回答が文字入力技術の習得が追いついてないため、せっかく回答できるものもできないというのは、やはり子供たちに対しても、いかなものかなと思ひまして、今現在のタブレットの事業に関してどの程度行っているのかという点をお聞きしたいと思ひます。</p>
青木会長	<p>はい。ありがとうございます。では、担当の方お願いいたします。</p>
教育センター	<p>タブレット回答にしたのは、昨年度からですが、タブレット回答にした当時、まだ授業の中でタブレットを活用する時間が今よりも少なかったということと、小学校の1年生から4年生に向けては、まだローマ字</p>

入力ができず鉛筆で入力したり、またスペースが足りないところに一言キーワードだけ書いて文章化できなかつたりというような課題が見受けられました。ということで学校現場からは、タブレットでの回答が難しかったということですので、その後タブレットの活用を授業の中で5割以上活用するというような形で目標を取り授業で活用してまいりました。今年度は、各学校訪問させていただきましたが、昨年度よりもタブレットの使い方が上達しております。

授業の中での活用ですが、4市で研修会を行っているのですが、授業の中の導入で動画の資料や写真など、子供たちの興味・関心を引くような教材を扱うときにタブレットを使う、または授業の中盤で子供たちの意見・対話をさせる時タブレットに意見を書いて大画面の中で意見を全員で共有する、また授業の終末で自分の考えを再構築するときに学んだことを全てタブレットに残しておいて、自分で再度振り返る事ができるように活用しております。

青木会長

ありがとうございます。他にございますか。
石井委員お願いします。

石井委員

29 ページ、読書活動推進事業の中で本市は読書支援員など、大変積極的な雇用の中で児童・生徒が本好き、またひいては学力向上につながるということで、大変成果を上げられているということで大変嬉しく思います。

そこで、先ほどもお話がありましたが市立図書館ができたことで、10月の広報ふっつでは、10万人突破という写真入りの記事になっていて、図書館建設に向けて大変ご苦労された成果が徐々に上がっているなということで大変嬉しく記事を拝見させていただきました。

その中で、読書活動推進の学校教育課での児童生徒への支援員などの雇用と、生涯学習課が主管とされているその市民図書館の運営についてのどのような連携が図られているのかも、差し支えなければ、子供の読書活動推進それから市民の読書へのその興味関心の向上に向けて何か学校教育課と生涯学習課が連携を図られているものが具体的にあれば教えていただきたいなと思います。

青木会長

はい、ありがとうございます。
それでは、担当部署お願いいたします。

学校教育課

私達が注目をし、大事にしている活動ですので、ご質問いただき感謝しております。学校教育課としまして、学校の中でも読書活動として小中学校では、5のつく日は読書の日としております。それが授業の中で読書活動を入れる、読み聞かせをする、宿題等で読書をする等ですが、日々行っている読書活動をさらに5のつく日は充実した日にしようということにしています。

その関連で、5のつく日に図書室に行く子供たちが増えております。

または校外学習で、生涯学習バス、スクールバスを特例利用して、図書館に行く学校もたくさん増えております。

生涯学習課長

生涯学習課からもお答えいたします。

生涯学習課は、読書支援員と連携し、図書館協議会の中で委員さんとして読書支援にも入っていただいております。

また、市役所に常勤司書が2名おりますので、司書と読書支援員で随時連絡調整なども行っております。学校への団体貸出ですと、図書館で100冊まで貸し出しできますので、学校と連携を取り学校に届けるというような取り組みを行っております。

青木会長

はい、ありがとうございます。

石井委員

どうもありがとうございます。今後も図書館に通う子供たちが増え、市民の興味関心が向くような体制を整えていただければと思います。

今後ともよろしく願いいたします。

青木会長

それでは他にご意見ご質問等ございますか。

岩井委員、お願いします。

岩井委員

24 ページの地域交流センター事業の件についてと子育て講座の開催についての2点ご質問をさせていただきます。

まず1つめですが、地域交流支援センターの次年度以降の取り組みにおいて、子育て中の親子の居場所だけでなく、地域の人が気軽に立ち寄り交流できるような環境整備を図っていくとありますが、この環境整備の中に、いろんな方が利用されることよっての防犯対策など、そういったことも含まれてらっしゃるのでしょうか。

もう1つは、子育て講座の開催についてですが、新型コロナウイルス感染症の影響により講座の開催ができなかったというのは、非常に残念な結果ではございますが、引き続き子育てに役立つ動画を配信していくという次年度の取り組みで記載されています。

この件に関して、成果においてが今まで0になってしまって、今後は動画の配信をしていくというのであれば、成果の評価方法というものを改めてあげないと、何もしなかったということになってしまうかもしれませんので、ちょっともったいないと思いました。

なので、成果の評価方法を変えられてはいかがでしょうかという意見ですね。この2点です。

青木会長

ありがとうございます。それでは2点ございました。

担当の方お願いします。

こども家庭課

地域交流支援センターの環境整備につきましては、これは防犯上の観点というより、今年度実際にやらせていただいた実績としましては、岩坂地区の方々と、七夕集会という企画をさせていただきまして、地区の

方にも、地域交流支援センターに足を運んでいただいて、地域交流支援センターを知っていただくというようなことをやらせていただきました。なかなか地元の方でも、小さいお子様がいらっしやらないと足を運ぶ機会もなかったように聞いておりますので、交流を深めていき、地域に密着施設にしていくということで環境整備を目指すという取り組みとして挙げさせていただいております。

それと、子育て講座の開催につきましては、委員おっしゃる通り、成果につきましては、今後どのような形で掲載するかについて検討していきたいと考えております。

青木会長

ありがとうございます。環境整備の関係で言えば、そのいろんな方が来るということに対しての防犯関係について質問されたと思いますが、地域の方が来るということで、何か特別防犯の対策をしているということではないというようなお考えでしょうか？

こども家庭課

一般的な防犯対策は行っていますが、特別な防犯対策は行っておりません。

青木会長

岩井委員いかがですか。

岩井委員

一般的な防犯対策というのがちょっとわからなかったのですが、富津市内の小学校や中学校とかそういう学校の防犯と同じような防犯ということですかね。

こども家庭課

門を閉めるとか、鍵をきちんと施錠するとか、そういった基本的な防犯対策は実施しております。

岩井委員

ありがとうございます。
職員の方は、対策やそういった取り組みをされているということですね。ありがとうございました。
私も利用させていただいているので安心しました。

青木会長

次に、小嶋委員お願いします。

小嶋委員

23 ページの下段で電子母子手帳の活用というところで、20 年度、21 年度は評価の達成状況が良い感じになっていたんですが、22 年度になって、電子母子手帳の活用が伸び悩んでしまった理由っていうのは、結構もうスマホが主流になっているところの中で、やはり母子手帳というのはやっぱり紙の方が何か思いが伝わるのかな、手帳を電子化することのメリットもあると思いますが、自分が育てたときは、紙しかなかったので、スマホが電子手帳になったことで、事業内容の中に、離れた祖母の方と共有できたりっていうことで子育てに参加できたりっていうことがメリットとしてあるのかなと思います。登録者数は、379 人いらっし

やるようですが、今後の対策として何かもうちょっと活用できるようなものがあったら教えていただきたいです。

2点目に、42ページの地域交流支援センター管理運営事業ですが、いろいろな地域や世代間の交流を図ることができたと書かれていますが、お子さんだけでなく地域のどのくらいの世代の方が、例えば高齢者の方もそこに参加されたのか、子育て中のお子さん親御さんが多く利用されたのか、もしそういう世代間の交流ということで高齢者の方も一緒に交流できれば高齢者の活性化にもなるのかなというふうに思いました。今後具体的な方法があれば教えていただければと思います。

先ほど、岡田委員からチャイルドシートの話があって、県内の市町村をちょっと調べたところ、あまりこういう事業をやっている市町村は少ないのだということをしごく思いました。なので、富津市としてはすごくいい活動をされているなど改めて思いました。

他の市町村だと、お金を補助金という形で一部補助しますとあり、例えば5000円を補助しますとか、1万円補助している市町村もありますが、富津市として今後補助金的なもので対応するというようなことも考えてらっしゃるのかという点について、この3点をお尋ねしたいと思います。よろしくお願いします。

青木会長

まず初めに23ページに電子手帳の活用についてですが、担当の方お願いします。

健康づくり課

電子母子手帳ですが、普通の母子手帳は必ず皆さんお持ちいただくように法律で決められておりますので、並行して活用いただいております。

この電子母子手帳は、こちらにも記載させていただきましたように、家族で記録を共有したり、予防接種がすごく複雑になっておりますので、子どもを登録していただき、次の予防接種の案内などに皆さん使っていただいております。

利用の伸び悩みに関しては、出生数がだいぶ少なくなっておりますので、妊娠届の際は、必ずこういうアプリがあるということをご案内させていただいております。お母さん方は、色々な情報をお持ちになっており、他にも同じようなアプリが多くありますので、ご自身が活用しやすいアプリを選択されている方も結構いらっしゃいます。

その中でも富津市独自の事業を案内できるアプリということで、皆さまにご案内させていただいております。今後もできるだけ活用していただけるように周知をしていきたいと思っております。

青木会長

はい、ありがとうございます。

次に42ページの地域交流支援センター事業の関係ですが、担当の方お願いします。

こども家庭課

まず初めに、カナリエの世代間交流の件につきましては、令和4年度はファミリーサポートセンターの事業をカナリエでも実施しております。

そのファミリーサポートセンターの、依頼を受けて活動を提供する、まかせて会員さんと、日頃カナリエでフラダンスやヨガ等のサークル活動をされている団体等にお声がけをさせていただいて、一緒にフラダンスをしたりというようなことをやらせていただいております。今年度に入ってから、地元の方と一緒に七夕集会をやっていただいて、色々な世代の方に参加をしていただきました。カナリエにいらっしゃるお母さんたちも、身近におじいちゃんおばあちゃんたちが皆さんいるご家庭ばかりではないので、そういった多世代の方と交流させていただくことで、カナリエに来ていただいた親子にとっても非常にいいんじゃないかなと考えております。今後も引き続き世代間交流はやっていきたいと考えております。

続いてチャイルドシートの補助金につきましては、委員からお話あった通り補助金っていうのも1つの有効策と私どもも考えております。

先ほど、岡田委員からのご質問もありました通り、1年だけの貸出期間というのが本当にいいかどうかということも含めて、どのようにすれば有効なのかという制度設計を今後検討していきたいと考えております。

青木会長

はい、ありがとうございます。
小嶋委員いかがですか。

小嶋委員

ありがとうございました。
やはり子育てしていく中で、高齢者の方もお子さんに会うということでも元気が出たりということもあるので、今後こういうことがいろいろ活発になるとありがたいなと思っております。ありがとうございました。

青木会長

ありがとうございます。他にございますか。
梅内副会長お願いします。

梅内副会長

事業実績のご報告ありがとうございました。22年度というと、まだコロナの真っ只中で、いろいろ活動制限があった時期だと思いますが、目標1・2について、かなりの数がA評価やB評価ということで目標を達成していることに対して、担当課の皆さんのご尽力に敬意を表したいと思います。一方で、基本目標1・2で子育て世代や、地域の皆さんとの触れ合いの事業が多いと思いますので、コロナの活動制限があけて、出来ていなかったものもフェイスフェイスで触れ合ったりという事業がまた利用できるようになったと思います。今年度、来年度に向けて、特にD評価のものについて何か改善して進めるものがあればご紹介いただければと思います。どの項目というわけではなく、何か事例がございましたらご紹介いただければと思います。

青木会長

はい、ありがとうございます。では、市長お願いします。

高橋市長	<p>D評価になっているものに関して、私達も何とかしなければいけないという思いは強く持っております。</p> <p>そうしたとき、先ほどお話もいただきましたけれども、コロナ禍で対面だけではなく取り組めるというようなこともあろうかと思っておりますので、声を上げていただいている方が、どのような形でこちらからサービスを提供することが求められているのか等々も考えながら、サービス内容について検討してまいりたいと思っております。</p> <p>そして、この評価指標についても何か変える部分があれば、今後しっかりと協議をした上で取り組んでまいりたいと思っております。</p>
梅内副会長	<p>我々事業者ですと、いろいろ事業やっていく中で、目標設定に固執しないで状況に応じて目標変えて見直していくというの必要なのかなと思っております。</p> <p>やり方のプロセスもどんどん改良して改善していくというのが必要なかなと思っておりますので、もしこういった事業の中で、今の時代に合わせて目標設定するというのも1つの考え方かと思っておりますし、必要なかなと思っておりますので、また今年度来年度も皆さんよろしくお願ひいたします。</p>
青木会長	<p>ありがとうございます。では島野委員お願いします。</p>
島野委員	<p>以前、小さい子に対しての支援策はたくさんあるけど、小学校以降になると支援が少ないみたいなコメントをさせていただいた記憶があります。</p> <p>その時からすると、だいぶ小中学校の支援って手厚くなってきたなと思っていて、委員として意見を言った甲斐があったなと思ひ感謝しております。その関係で、29ページの下ですが、子供学習支援事業という貧困困窮家庭の支援のための施策があって、自己評価のところは、利用者は16名にとどまっておりますという表現があります。</p> <p>これは市としては何人ぐらいが対象になると思ひていて、それが今16名に活用いただいているということだと思ひていますが、本当は、どれぐらいの人に使っていただきたかったということなののでしょうか。</p>
社会福祉課	<p>16名にとどまっているというところですが、会場のキャパ等もありますので、あまり多くの方はご利用できないのですが、25名から30名程度を考えております。</p>
島野委員	<p>それは25～30名ぐらいが支援の必要な人数という認識ですか。</p>
社会福祉課	<p>教室のキャパシティーになります。</p>
島野委員	<p>わかりました。とどまっておりますと書いてあるので、もっと本当に支援が必要な人がいるのかなと読めたので質問させていただきました。</p> <p>次に、31ページ下段の出会いの場の創出ですが、一番下に補助事業から業務委託により行う実施方法について検討していくという書き方です</p>

が、補助事業と業務委託は何が違うのでしょうか。市民の目線から見ると、どちらも同じように見えるものですから、何が違うかを教えていただければと思います。

青木会長

ありがとうございます。担当部署の方をお願いします。

市民課

こちらの次年度以降の取り組みにつきましては、婚活支援事業のことを指しております。ご質問ありました補助事業と業務委託は何が違うのかということですが、現行は補助事業で実施をしております、補助事業は事業をやりたい方が手を挙げていただき、その方に対して補助するってような手法になります。現状では、実施をしたいという希望が少なくなっていて、これを課題と捉え、業務委託を検討しました。

業務委託にすると、市からこの仕事をお願いしますと受動的な事業の実施から能動的な実施形態になるというイメージをしていただければと思います。

島野委員

次に、41 ページですが、消防団ですが、なり手が少なくて苦労されているのかなと想像しております。消防団の処遇改善ができましたと書いてあり、例えばこれ年額でいくら報酬を支払ってらっしゃるのでしょうか。差し支えがなければお答えいただければと思います。

青木会長

それでは、この質問に対して担当の方お願いいたします。

消防総務課

令和5年4月から団員1名の年額報酬は、国の基準に従ったものであり、36,500円になります。この金額を基準に役職に応じて金額が変わっております。

島野委員

多いのか少ないのかよくわかりませんが、大変な仕事の割には少ないのかなと思いました。消防団の方に感謝したいと思います。

青木会長

はい、ありがとうございます。お願いします。
次に笹生委員をお願いします。

笹生委員

44 ページですが、成果の方はフレイルチェック参加者延べ人数が今までDだったのが、いきなり人数が増えているということで、とてもいいことだと思いました。下の事業自己評価のところにフレイルサポーターを養成し、とありますが、実際にこのフレイルサポーターの方はどのくらいの人数が養成できたのでしょうか。その結果を教えてくださいたいと思います。

青木会長

はい、ありがとうございます。担当の方お願いいたします。

介護福祉課	<p>フレイルサポートについては、過去にフレイルチェックの講演会があり、その中でフレイルチェック活動に興味を持っていただいた市民の方になっていただいております。</p> <p>人数につきましては、細かい数字は手元にないのですが、大体 10 数人程度のサポーターの方を養成させていただきました。昨年度から広報誌等でフレイルチェックに興味を持っていただいた方に活動を実施しているということでございます。</p>
青木会長	<p>ありがとうございました。 それでは岩井委員お願いします。</p>
岩井委員	<p>41 ページの下段、先ほどもお話にもありました人手不足だと思われま す。2019 年度からは OB 団員による機能別団員制度を導入し、地域の防 災力の充実と記載があります。</p> <p>その中での成果において、消防団員数の実績の数字の中にこの OB 団 員という数字も入っているのかというのが少し気になりました。消防団 は、おそらく活動内容は多岐にわたると思います。その中で、この機能 別というこの部分だけをお任せされるっていうのを切り離したというこ とは、この定員数の上限は定員枠っていうのを変動させるのかっていう のが少し気になっています。</p> <p>先ほど出動報酬もしくは年額報酬を上げられたということもありまし たので、そういったことも考えると、この定員数に上限数に変動がある のかについて教えてください。</p>
青木会長	<p>はい。ありがとうございます。 よろしくお願いします。</p>
消防総務課	<p>消防団員の定数を OB 団員による機能別団員で補っている状況であり ます。</p> <p>それぞれの各分団には定数があり、その定数を超えない範囲の中で機 能別団員によって地域の防災を担うという部分も多分にあります。</p> <p>これまでの傾向を申し上げますと、団員を退団し、また班長以上の役 職になりますが、その中で継続して地域の防災に貢献したいというお考 えの方については、機能別団員に移っていただき、災害活動にあたって いただくということで説明しております。</p>
岩井委員	<p>そうしましたら、消防団員の人手不足について市としてはどのような PR というか増員の向上に努められているのかお伺いします。</p>
青木会長	<p>担当お願いします。</p>
消防総務課	<p>基本団員にあたりますが、通常の消防団活動する隊員につきましては、 現在の富津市の人口が減少している状況でありますので、なかなか理解 が得られたとしましても若年層の人口が減っているというところもあり</p>

ますので、市ホームページや二十歳の集いの際に、消防団活動について説明させていただき、理解を求めるということをこれから計画しようと思っております。

青木会長

はい。よろしいですか。

岩井委員

是非とも団員が増えると心強いですね。
ありがとうございました。

青木会長

たくさんのご意見等いただきましたが、一旦ここで休憩をとりたいと思います。休憩は約10分とっていただき、11時20分に再開させていただきたいと思います。それでは、休憩とさせていただきます。

—休憩—

青木会長

時間となりましたので会議を再開させていただきたいと思います。それでは、基本目標3、4についてご意見を伺っていきたいと思います。50ページから73ページとなります。よろしくをお願いします。
いかがでしょうか。では、笹生委員よろしくをお願いします。

笹生委員

鳥獣被害の関係ですが、53ページと他のページで農作物の被害の状況等はあったと思いますが、私も田舎の方に住んでいるので、よくイノシシやシカとか年中遭いますが、実際農作物の方は被害が減っていますという感じで金額提示されたんですが、周りの農家の人たちに話を聞くと、今年は増えているという話を聞きます。この被害の金額というのは多分、農家の方が実際どのくらい被害にあいましたという報告していると思います。多分ちょっと面倒くさいから報告してないよっていう人を何人も聞いたので、そういったのは含まれているのかなと思います、実際のところは多分増えていると思います。

今年に関してもイノシシの被害は、とても多くて鉄のメッシュをやっているところもありますが、今まではメッシュをやっているところに入ってきたのですが、最近イノシシもだんだん利口になってきて、メッシュの弱いところを突っ込んで中に入って、毎日田んぼを荒らしているという話をよく聞きます。

鳥獣被害に関しては、前回の質問をした時には、講演会とか講習を開いて対応していきますという話を聞きましたが、今後それだけではどうにもならない部分があると思うので、今後の対応に関してお聞きしたいと思います。

青木会長

はい、ありがとうございます。それでは担当の方をお願いします。

鳥獣対策室

まず、被害額についてですが、感覚としては私どもも被害は増えているという認識はしていますが、調査の中では数値は下がっているということです。この自己評価のところに書いてありますが、実際に農作物を

作っている人が辞めてしまうと、それは農場被害として上がってこない
ので、実際の被害額としては下がってしまうということで、一概に鳥獣
被害が減っているということではないと認識しております。

この調査の仕方ですが、毎年4月頃に市民に向けて農作物の被害をお
願いしていますが、確かに調査の仕方に関してはご意見をいただいて、
なかなか記載をしていただけないなどあります。

ただ、市としても、被害額を出さないことには、実際どれだけ被害が
出ているのかを県に報告できないので、今後はもっと記載しやすいよう
調査の仕方を検討してまいりたいと考えています。

次に柵の件についてですが、1回設置すれば、それがずっと有効なも
のではなく、維持管理が必要になってきます。

ただ、地域の方も高齢であったり、人がいないなどで、なかなか維持
管理ができてないというのは、現状としてお話をいただいたところでご
ざいます。

そのため柵の設置を実施した人だけでなく、地域で協力をして、柵の
維持管理をしていくということを今後やっていかないと柵自体が無意味
な物になってしまうので、そういう取り組みとして、昨年度から市民向
けの講演会や、こういう対策をしたいという地区には、専門家の方と一
緒に行って、鳥獣の生態や対策の仕方、柵の管理方法を説明しています。
また今年度も引き続き市民向けの講演会や、地区の検討会を行っていく
予定であります。

青木会長

笹生委員いかがでしょう。よろしいですか。

笹生委員

はい。ありがとうございました。

青木会長

他にいかがでしょうか。鈴木委員いかがですか。

鈴木委員

うちも例にもれず、イノシシの被害がすごく多くて、農済に入ってい
たときは、イノシシの被害も補償してもらえたんですが、収入保険にな
ってからイノシシは駄目になってしまい、イノシシ対策と言ったら弱
いのかなと思います。結局、イノシシが入ってくるからホールクロー
プにしましょうとやっていくと、全部がホールクロープになってしまうよ
うなところがやっぱり多いのかなと感じます。

先日、中学生がイノシシに襲われたということがあったようですが、
昔は山の方しかいなかった所が、すごく近場に来てるなと思い、すごく
恐怖を感じています。

イノシシを減らすために、どのような対策をもっと練ったら良いので
しょうか。

鳥獣対策室

人身被害については、近年、2件くらい出ており、主に朝、犬の散歩
中に興奮したイノシシに襲われたり、ヘッドフォンをしながら散歩をし
ていて、近くにイノシシがいることに気づかずに対面してしまい、興奮
して襲われたり等の状況があります。

実際、イノシシがどのくらいいるのかは、わかりません。

富津市では、年間 2,000 から 3,000 頭の捕獲をしています。

それでも減った感じがしないというのは、住宅と山との間がだいぶ近くなっていて、なかなか管理されない耕作放棄地や、山との境の林縁部などの管理が行き届いていない状況なので、生活圏と近い状況になったのでこういう事故が発生していると思います。

そのためには、地域で話し合う機会や、その地域でそういう認識を持ち、ここはイノシシがよく出るから気を付けたほうがいいのか、そういう地域でコミュニケーションをとって、気をつけていただくしかないかなと思います。

捕獲は、一生懸命やっていますが、なかなか全頭捕獲というのは無理な話なので、お互いが気をつけてもらわないといけないと思います。事故があった場合は、早急な情報共有を図り、皆さんに周知しております。

青木会長

はい、ありがとうございます。なかなか対策が難しいというところで全く 0 にすることはできないってことなのでしょうね。

それを理解しながら地域の人が暮らしていかなければいけないのかなと感じました。

鈴木委員

もう 1 ついいですか。

イノシシの罠みたいなのが設置されていると思いますが、その設置されている場所が本当に合っているのか疑問に思います。

例えば、ワイヤーメッシュの隣にイノシシの罠があって、その向きじゃ入って来ないよねというのを見かけることがあって、設置の仕方をもう少し考えた方がいいのかなという所が結構あります。

青木会長

はい、お願いします。

鳥獣対策室

富津市には、捕獲従事者の免許を持っている方が 110 名位いらして、全ての方が同じスキルではないので、なかなか捕獲頭数も多く取れる人もいれば、取れない人もいるという状況です。

捕獲事業者の技術講習会を昨年度から実施して、初級、中級とやりまして、今年度上級をやるかと思っています。スキルアップも含めながら、捕獲従事者の皆さんそれぞれのコツや、そのノウハウを持っていますので、今後そういうものの情報共有を図って、皆さんが取れるような支援をしていきたいなと思っています。

あと柵のあるところに檻もあるというお話ですが、柵というのは防護する上でそれだけでは対策はできないので、防護と捕獲を一緒にやり、なおかつ環境整備も一緒にやっていかないとはいけません。

それらをやって対策がうまくいくのですが、なかなか現状難しいところもありますので、その辺を今後強化していきたいと考えております。

青木会長

はい。ありがとうございます。

鈴木委員よろしいでしょうか。

鈴木委員

はい。ありがとうございます。

青木会長

次に、石井委員お願いします。

石井委員

54 ページの民間事業者と連携した移住情報の提供による転入促進というところで、お伺いしたいと思います。

私、富津生まれの富津育ちで、富津はすごく魅力のある土地だなと思いつつながら、もう 60 何年も生きています。

やはり、人が集まるところは活気が出てきますし、現状から考えると富津は少し人口が減少傾向にあるということで、これやはり市政運営をされている市長さんをはじめ市役所の皆さんにとっては、行政の問題として大きな課題の 1 つだと思います。

そこで、54 ページの地域おこし協力隊の活用により、ターゲットを絞った特色ある情報発信に取り組むということが述べられていますけれども、この地域おこし協力隊の活用とありますが、この地域おこし協力隊というのは、正直なところよく理解できていなくてどんな組織なのか、どんな方々がどんな活動をされているのかというのをお伺いしたいと思います。

併せて、成果のところでも 2022 年度は達成状況が D 評価になっています。コロナ等々の社会情勢を考えた時には、やむを得ない結果とは思いますが、今後、具体的にどんな方法でこのようなその促進に向けての取り組みをなされていくのか、もし具体的なものがあればお願いしたいと思います。

青木会長

はい。お願いします。

政策推進課

地域おこし協力隊の活動内容でございますが、令和 4 年度までに 2 名の方を地域おこし協力隊として任用させていただきました。

市内の企業情報や、求人情報を発信するポータルサイト、「しごとサポートふつつ」の立ち上げや、移住定住に係るパンフレットや空き家バンクのリーフレットの作成、また、SNS を活用した観光情報の発信などをお願いしました。

2 つ目の質問の今後の PR の仕方についてですが、政策推進課の方で任用しておりました地域おこし協力隊の 2 名については、1 名は任期満了に伴い退任され、もう 1 名は自己都合により退任されました。現在は政策推進課で任用している地域おこし協力隊はいないという状況です。

今地域おこし協力隊の方がいらっしやらないという中で、ホームページですとか、各団体で開催している移住に関するイベント等に参加し、富津市の PR をしていき、市外の方や都心部から富津市に移住していただけるように政策を行っております。

地域おこし協力隊の説明を追加させていただきます。

地域おこし協力隊は、都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を異動して、生活の拠点を移していただき、地場製品の開発、PR 等の地域おこしの支援等を行っていただいく方でございます。

青木会長	この地域おこし協力隊という組織が大勢いて、その内の2名が、ということですか。
政策推進課	富津市内には、これまで4名の地域おこし協力隊の方がいらっしゃいました。そのうちの2名は、政策推進課で任用しておりました。 現在任用をされている方は、農林水産課でされており、事業の実施をしていただいているという状況です。
青木会長	石井委員よろしいですか。ありがとうございます。 はい、市長お願いします。
高橋市長	1つ補足をさせていただきます。 現在、水産に関わる地域おこし協力隊を2名任命しております。 詳細は、後ほど担当の方からご説明をさせていただきます。 加えまして、商工観光の特に観光に携わる部分で、1名の地域おこし協力隊を任命しております。 この人材に関しましては地元出身の方で、都会で旅行会社等に勤めていた経験があり、そのネットワークを使って、現在富津市に多くの観光客を呼び込むためのメニューを作ったり、実際にその旅行を実施したり、また富津市の PR のために県のメニューに同乗させていただいて、外国に PR 活動に足を運んだりということもしている状況であります。
農林水産課	水産業に係る地域おこし協力隊についてですが、漁業の担い手の確保を目的に、都会から富津市に移住していただいて、ノリの後継者になっていただくような取り組みになっております。 現在2名の方は、主にノリの養殖業に従事されていまして、大佐和漁業協同組合の指導のもとに活動をしている状況であります。
青木会長	はい。ありがとうございます。 岡田委員お願いします。
岡田委員	64 ページの農地中間管理事業の上段ですが、資料から読み取れなかったもので、純粋な質問ですが、22 年度の KPI が突出しているのですが、これは何か理由があったのですか。22 年度、本当はビッグプロジェクトがあったのが、残念ながら潰れたとかそういうのがあったのかなと思って質問させていただきました。 もう1点、67 ページの下段の海水浴場の件、あるいは72 ページの公園管理事業なのですが、特に公園ですけども民間活力を呼び込む上で今 PFI であったり、パーク PFI がかなり注目されています。 PFI、特にパーク PFI は、結局カフェ作って終わりでしょって話なのですが、都会ではないにしろ、民間活力を活かした PFI、パーク PFI 事業あるいは、海水浴場というのはまだ可能性が残っていると思ひまして、現状の公園法では多分 PFI 使うのは難しいんでしょうが、何かそういう

民間の活力を呼び込むみたいな政策について検討されてるかを質問させていただきます。

青木会長

はい、ありがとうございます。それでは担当の方お願いします。

農林水産課

64 ページの農地中間管理事業についてですが、2022 年度の達成状況及び評価になっています。

この事業は、農地中間管理機構を通じて農地の賃貸借を行って、地域の中心的な経営体の方に農地集積を図るうち、実質化した「人・農地プラン」を策定した地域において、地域集積協力金等を受け取る交付対象の農地の集積面積を、成果指標に設定しております。

2022 年度末に、市内で1 地区、実質化した「人・農地プラン」の策定をしました。その地域の農業者等の話し合いの中で、農地の集積を行うものの地域集積協力金等を受け取らないことを地域の皆様が話し合いの中で決めたこともありまして、この実績としては0 ヘクタール、D 評価となっております。

青木会長

はい、ありがとうございます。
続きまして、担当の方お願いします。

商工観光課

67 ページの PFI の活用ですが、海水浴場は基本的に市で開設をするということになっていまして、そういった活用ができるのかどうかは、また研究させていただこうかと思えます。

現状的には開設者は市ですので、その中で海の家などは、基本的には地元の事業者さんにお金を稼いでいただいて、我々の方で誘客をして経済の循環もというような形で考えておりますので、PFI であったり、色々な活用ができるかどうかについて研究させていただきたいと思えます。

青木会長

はい、ありがとうございます。
申し訳ありません。PFI がちょっとわからなくて、教えていただけると助かります。

岡田委員

プライベート・ファイナンシャル・イニシアチブと言って、本来、自治体や公共がやるべきものを民間に入ってもらって、そこでお金を稼いで、その稼いだお金で管理をし、さらに民間の知恵でお金を稼ぎながら、賑わいを創出したり、目的を達成していくみたいな政治手法のことです。

青木会長

ありがとうございます。

都市政策課

72 ページの市民ふれあい公園管理事業ですが、市民ふれあい公園については、現在、指定管理者制度という形で公募によりまして、富津市施設利用振興公社・ミズノ共同体という形で、民間の活力のもと運営しています。具体的には、NIPPON STEEL 陸上競技場で走り方の矯正など実施しており、利用者の向上を目指しております。

またパーク PFI ですが、県立富津公園において現在千葉県の方が検討しているという情報がございます。

大変良い事例になっていくと思いますので、注視をしていきながら、市民ふれあい公園についても設立から 30 年以上経っており、皆さんのニーズが変わってきていますので、周りの状況等も勘案し今後パーク PFI を含め研究していきたいと考えております。

青木会長

はい、ありがとうございます。

まだまだご意見があるかと思いますが、時間が進んできております。それでは、議案（2）につきましてはこれで終了とさせていただきたいと思っております。

7 その他

青木会長

それでは、本日の議題については全て終了しましたが、その他として委員の皆様から何かございますか。

事務局から何かありますか。

では、事務局からお願いいたします。

事務局

次回の会議につきましては3月を予定しております。改めて通知等を送付させていただきますのでご承知おきください。

青木会長

はい、ありがとうございます

それでは、以上をもちまして全ての議事を終了させていただきたいと思っております。

本日の議事の内容につきましては会議録の確認をもって取りまとめさせていただきますので、ご了承お願いいたします。皆様にご協力いただきまして、大変多くのご意見ご質問等いただき本当にありがとうございました。

それではこれにて進行を事務局にお返しいたします。

よろしく申し上げます。

8 閉会

事務局

ありがとうございました。

閉会にあたりまして、小泉副市長からご挨拶申し上げます。

小泉副市長

それでは、私から閉会にあたりご挨拶させていただきます。

本日はお忙しい中、富津市創生会議にご出席をいただき、また長時間にわたり活発なご意見、また貴重なご意見等をいただき、誠にありがとうございました。

会議冒頭にも市長から申し上げましたが、富津市みらい構想を策定し、市が目指す10年後の将来像をお示ししたところでございます。

その将来像の実現に向けまして、市民の皆様とともに取り組んでまいりますので、引き続き市政発展のためご協力いただきますようよろしくお願いを申し上げます。簡単ではございますが、私から挨拶とさせていただきます。

それでは、以上をもちまして富津市創生会議を終了いたします。
本日は誠にありがとうございました。

(終了時刻 午前 11 時 50 分)

以上